

スマートフォン用アプリケーション 開発アイデア案

岡拓哉

anchor.taku@gmail.com

・タイトル名

イントキオ(In Tokyo)

・アイデアの概要

株式会社 tab（当時：頓智ドット株式会社 Tonchidot corporation）が 2009 年 9 月にリリースし、2014 年 1 月にその全サービスを終了させた『セカイカメラ』というアプリケーション（以下、アプリ）に似たもので、2020 年の東京オリンピックに向けて観光案内をサポートするアプリである。

発想の発端としては、自分が東京の街を歩いていた際に遠くに見えるビルなどの建造物がどの建物であるかわからず、パッと認識し教えてくれるツールがあったら便利だと感じたことである。音楽認識アプリ Shazam のような使い方がされたい。

アプリの使用イメージとしては、カメラ機能を用い、対象にかざすことで、ポケモン GO 等でその活用が大幅に認知された AR（拡張現実）技術で、対象の名称および簡潔な情報を表示するものである。さらには、マップ、エンジンでの検索や SNS での共有などに結び付けられるとよい。

・類似アプリ『セカイカメラ』からの改良点

① スマートフォンの普及

iPhone がアップルによって最初に発表されたのは、2007 年 1 月で、『セカイカメラ』が登場したのはそこから 2 年も経過していない頃であったために、繁華街等の街中でスマートフォンをかかげ、かざすという行為は、あまり一般的ではなかった。しかし、博報堂 DY メディアパートナーズのメディア環境研究所が 2018 年 5 月 28 日付で発表した「メディア定点調査」によれば、スマートフォン/タブレット型端末所有率は 79.4%である。さらには、GPS と一体運用が可能な衛星測位サービスが提供可能な衛星が打ち上げられ、高性能な位置情報サービスが可能になっている。この点において、現代の日本であれば、苛まれることの少ないポイントである。

② 情報の整理

『セカイカメラ』は、「Tagging the World」を目指していたことからあらゆるユーザーに対して自由にテキストや写真などを投稿できる「エアタグ」という機能を採用していたが、それによって有用な情報を取捨選択することを困難にしていたが、その点に関しては、近年アプリで流行であるユーザー間のフォロー等の機能を用いることで特定のユーザーが投稿した情報のみを表示することや、表示・非表示等の選択の機能を採用することで解決が可能である。

- ・ターゲット

- 諸外国や田舎からの観光客

- 常用されにくいところが難点であるため、初めは東京のような都市部に範囲を狭める。

- ・ジャンル

- マップ、SNS

- ・デザイン

- ポップで親しみやすいなどではなく、オシャレでスタイリッシュなデザインが好ましい。
また、2020年の東京オリンピックで外国人の使用にも対応したいため、できる限りの多言語対応が望ましい。